

盛岡市議会・雫石町議会懇談会概要書

1 日 時 平成14年1月24日(木)
午後3時20分から午後5時(会議時間1時間40分)

2 場 所 ホテル大観 10階 スカイダイニング清漣

3 出席者

(1) 盛岡市議会

議長	山本武司君	広域行政問題懇話会会長	高橋金兵衛君
広域行政問題懇話会副会長	北田正夫君	委員	堀合正民君
委員	菅野正君	委員	小枝指博君
委員	工藤由春君	委員	本宮秀孝君
委員	細川光正君	委員	小杉正夫君
委員	浅沼信一君	委員	青木道雄君
事務局長	丸谷誠一君		

(2) 雫石町議会

議長	大宮惇幸君	副議長	平子忠雄君
議員	上小林浩君	議員	古舘幸一君
議員	中野勇君	議員	高田朝男君
議員	武田光夫君	議員	坂下栄一君
議員	山崎留美子君	議員	前田隆雄君
事務局長	米田武美君		

4 盛岡市当局

企画部長	藤井禧勝君	産業部長	村上隆三君
建設部長	蜂谷憲一君	都市整備部長	船越義樹君
下水道部長	浅沼信一君	水道部長	羽澤勝雄君

5 事務局職員

事務局次長	立花勇司君	議事課長	阿部光雄君
議事課副主幹	田山浩充君	議事課書記	佐越賢一君

6 懇談会の概要

初めに丸谷事務局長の進行によって懇談会を開会し、山本議長及び大宮議長からあいさつがあった。

次に、懇談会出席者の自己紹介が行われた。また、丸谷事務局長から、懇談会に同席している市当局の担当部長が紹介された（企画部長、産業部長、建設部長、都市整備部長、下水道部長及び水道部長）。

次に、丸谷事務局長から懇談に入るに当たり、高橋会長が進行を務める旨が諮られ、了承された。

この後、高橋会長から広域行政問題懇話会における今までの協議経過等について、次のとおり説明がなされた。

- ・ 一昨年の12月定例会最終日に懇話会設立（議長の諮問機関として、議長及び議員24名）
- ・ 昨年までに何度か会を開き、隣接5町村との共通課題を洗い出し、リストアップ、取りまとめを行った。
- ・ 昨年、隣接町村としては初めて、滝沢村議会と共通課題について懇談会を開催
- ・ 今回の雫石町議会に続き、2月に玉山村議会、4～5月に矢巾町議会及び紫波町議会と、それぞれ個別に懇談会を開催予定
- ・ 共通課題については、こちら側で作成した資料を簡単に説明させていただく。ただし、盛岡側からそちらへ提示している共通課題には関わらない、むしろ雫石町の立場での要望や意見等も出してもらいたいので、こちらで出した資料にあまりこだわらないで話を進めてもらいたい。
- ・ 今回出された意見を取りまとめ、盛岡市議会議長名で市長に報告し、市長からはその対応について、できるだけ早く回答してもらおう。そして、それをまた雫石町議会に議長名で報告するという流れですすめていく予定。
- ・ 共通課題について（別添資料のとおり）

以上の説明を受けて出された意見は次のとおり。

◎（雫石町議員） 資料中の2観光について、雫石と盛岡は温泉に関して共通した問題があるとの感情を持っている。

また、岩手雪まつりについて、今までの形で果たしていいのかというようなことも感じている。

さらに、資料にあるシャトルバスについても、雫石町には小岩井農場、手づくり村、つなぎ温泉、鶯宿温泉から雫石スキー場、網張温泉を回るのにちょうどいい道路があり、それを盛岡とつなぐような形で実現したい。私も時々役場内でバス路線について意見を述べ

ているが、なかなか具体的に進まないところである。観光面だけではなく生活路線としての関係も含め、その辺を盛岡市と協力しながら進めたいと思う。

それから、冬季観光資源について、雫石にはアルペンスキー世界選手権大会が開催されたスキー場があるが、前回の国体誘致は結局放棄してしまった。雫石でスキーの大会が多く開かれれば、盛岡市としても非常に意義があると思われる。これから盛岡が雫石と連携して、国体あるいはその他の大会を誘致するような努力も必要なのかなと感じている。

また、現在岩手高原スキー場が休業している。昨年雫石町は地産トーカーンに対して再開のお願いをしたけれども、結局は再開に至らなかったという経緯がある。これもやはり何らかの形で協力を得ながら再開をする方法がないものか、何とかなればということを感じている。

最後に、現在秋田新幹線の雫石駅への停車本数が非常に少なく利用者も少ない。私も小さな民宿をやっていて、時々東京からお客さんが来るが、新幹線が早い時間に停車してくれば東京からも来やすいけれども時間が半端だったり本数が少ないということで、結局は利用されない。それから、今度新幹線が盛岡を越えて八戸まで伸びるけれども、そうなった場合、こまちの停車本数をふやさないとこの地域が不利になるのではということも感じている。その辺の協力をお願いできればと思う。

◎高橋・市会長　できるだけ多くの議員からたくさんの御発言をいただき、またきょうは市の担当部長も来ているので、こちらの立場で、もしお話できることがあれば、総括的に説明するというように進めさせていただきたい。

◎（盛岡市委員）　悪いという意味ではないが、国体の場所選定の件について、あの時は私も、せっかくアルペンスキー世界選手権大会に使われたスキー場があり、それから鶯宿、つなぎの温泉を抱えていることだから、雫石ばかりではなく盛岡も応分の負担をしながら誘致活動をやったらどうかということを行ったことがあった。そうしたら、雫石から全く音沙汰もないのにこちらから金を出すわけにはという話があった。アルペンスキー世界選手権大会の際には、せっかくいろいろ整備をしてもらいながら、国体だから俺は知らないというのは、盛岡としてちょっといただけないな、ということでもかみついたことはあった。また、こういうことが次にあるかどうかは別にして、盛岡へもそれなりに応分のお願いしたい時は遠慮なくお願いして、議長同志、首長同志も話し合いするような持っていく方をするように、やはりそういう呼びかけをしていかなければならないと感じる。そういう際には、こちらとしてもそれなりに動く方は動くだろうと思うのでよろしくお願いしたい。

◎（雫石町議員）　資料にはないが、聞く所によると、近く盛岡市で水道水源条例をつくるような報道があった。この条例は、現在の基準よりも厳しい内容のようである。当然そうなれば、雫石は川上であり、それなりの対応を求められるのかと思うが、その辺のことについて。

今、環境問題への関心が高まってきており、水にも特に関心が強いと思う。当然川上でやらなければならない仕事というのが出てくると思うが、同時に、やはり川下の立場としてきれいな水を求めるというものがあり、これは共通の課題として考えていかなければならないと、このような意識を持っていることから、一言発言させていただいた。

◎（雫石町議員） 私の方からは、2点ほど盛岡市の方にお伺いしたい。

1点目は観光について、国道46号線の共通案内板の設置ということが出ている。案内板は旅行する人たちにとってなくてはならない道標であり、盛岡市は盛岡市、雫石町は雫石町で看板をそれぞれにつくるのではなく、やはり共通の理念を持ち自然回帰というイメージを彷彿させるような、さらには環境に負荷をかけないような、そういったトータルの意味での案内板を、盛岡から雫石にかけて一つの流れの中で共通した意識を持ってつくるべきである。この点について、今盛岡市議会の方ではどういったことを考えているのか、これを一つお伺いしたい。

もう1点、手づくり村について、私も手づくり村ができた当初はとても興味深くて何度かお邪魔した。しかし、報道にもあるとおり、現在入場者が激減している。それは、雫石にも道の駅ができたり、他にもいろいろ競合する場所ができており、お客さんの引っ張り合いということが起きかねない。また、冬場に観光客が村内の工房を外から見て歩く際に、動物園の猿を見るようだと言っていた旅行者もいた。例えば、これを寒くないような防寒体制、ガラス張りは予算的に難しいかもしれないが、そうした風情、景観を考えた回廊をつくるといったことが考えられないか。それと、やはり手づくり村には、伝えていかなければいけない職人の魂があると思う。そういったことも踏まえ、観光はこれから分析が難しくなってきており、その辺が大変だと思うが、市議会の方ではどう考えているのか、お尋ねしたい。

◎（雫石町議員） 農業経営者としての観点から、農業関係の助成制度に対する盛岡市の考えと我々雫石町の考えとの間に、若干の相違点があると感じている。

資料では、雫石町には補助のかさあげ等や負担といった独自の助成制度がないと思われているようだが、町では特に農業基盤整備などに対して負担をしてきた経緯があるし、盛岡にしてみれば大変うらやましいんじゃないかということでは、山村地域振興策として集落水道などのインフラ整備等も整備してきている。雫石町は農業を核とした産業である。盛岡市では第2次産業や3次産業が核となり、おそらく農業は従というような立場ではないかと思う。別の言い方をすれば、盛岡市はある意味での消費地というとらえ方もしている。そうした中で、我々はこの地域を生かして独自の農業振興策やいろいろな助成制度を行っている。まだまだ煮詰めていかなければならないと思うが、その地域その地域での考えもあるだろうし、整合性の必要というよりは、お互いの地域でのよさをどこに見出し、それを生かしていくかということの方が原点ではないかと考える。

もう1点、皆さん御承知のように、BSE問題では我々の町も大変苦しんでいる。酪農の方々も、現在50頭ほどの乳を出さない牛を、ただただ餌づけしなければならないという

状況にある。何か対策を講じたいが講じようがないというのが現状のようで、乳を出さない牛に、毎日毎日餌を食わせているというところはかなり経営的な苦しさがあるように思われる。私も肉牛を飼っているが、これもまた非常な価格低迷が続いている。また、牛が死亡した場合、そういった死亡する牛もBSE問題で処理が大変困難になった。焼却処理をすれば非常に早い時点で安全性の確保を進めながら対策がとれるということで、農家側から行政が牛の焼却をできないだろうかという相談を持ちかけられたことがある。そういったことも含めながら、今後こうした問題の検討を模索している。

◎（雫石町議員） 1 ページ目の道路関係について。

雫石町も盛岡市も、国道46号線と106号線の横軸提携の流れで、何年か前から参加している。現在、北上から秋田の方に高速道路ができたということで、盛岡にとっても早急な対処をしなければ、秋田とのつながりが薄くなっていくではと思う。国道46号線と106号線の早急な高規格化を達成するために努力する必要があるのではと考える。

また、繫大橋の直線道路の関係について、今雫石では元御所の田んぼが土地改良の関係で整備が進行しているが、接している盛岡市部分では行われていない。そして、この土地改良では繫大橋からの道路が3本町道として予定されている。しかし、真っ直ぐ道路を引くとなると、盛岡の田んぼを通ることになる。繫地域と国道との連結向上のためにも、もう少しこの辺は協力してもらえないかと感じている。

◎（雫石町議員） 流域下水道の関係について、雫石町は御所湖の上流ということで、下水処理が、盛岡にいい水を使ってもらおうという意味からいっても大変重要な課題である。繫を経由して鶯宿までの流域下水道の早期の実現に向けて、是非皆さん方の御協力をいただきたい。

私どものところでは集落排水なども今盛んにやっている。しかしながら、鶯宿方面につきましては、早い機会に流域下水道、公共下水道を延長して整備してほしいという地元の願いがある。私も御所地区の者であり、この辺りは学校が2つもあり、あるいは病院あるいは福祉施設などもあるので、是非これは皆さんの協力をいただきながら、早い機会に供用できるようにお願いしたい。

また、農業集落排水は先ほども言ったように頑張っているし、「御所湖の水量を守る会」という市民団体があるが、この方々にも一生懸命頑張ってもらっている。何といてもやはりこの下水処理をきちんとしなければ御所湖の水量は守れないので、是非皆さん方の御協力をお願いしたい。

◎（雫石町議員） 全体的なごみ処理の問題について。

各自治体ではいろいろな観点からさまざまな取り組みが行われている。当方では、今の焼却施設について大体10年以上経過しており、これから補修費等もかかってくるのが予想される。また、ダイオキシン、不法投棄関係といった問題も今後対処していかなければならない。そういう中で、各自治体で焼却施設を確保というのはなかなか難しくなってく

るといような状況で、広域的な観点から検討していきたいと考えている

◎（雫石町議員） 岩手雪まつりに関して。

岩手雪まつりについては、盛岡市議会でも御存知のとおり、昭和43年に小岩井かまくらとして始まり、名称変更を経て今回で35回を数えることとなっている。これだけ続いたことについては、今まで関係町村の努力、協力のおかげと思っている。

さて、この行事には岩手県知事や盛岡市長、滝沢村長が顧問になっております。雫石町長が実行委員会の会長になっているが、ここで第34回の収支決算書を見てみると、雫石町は170万出している。盛岡市は負担金ということで9万円、滝沢村も負担金ということで10万円である。広域的な観光なのに負担金が少ないのではと思う。

これから広域的な面を考えるのであれば、やはり岩手雪まつりとなれば、本来は会長に岩手県知事、副会長に盛岡市長、滝沢村長、雫石町長がなって、それ相応の負担、支援をしつつ盛り上げていかなければならないのではないかと思っており、あえて申し上げた。

◎（雫石町議員） 環境問題について。

盛岡市ではほかの雫石町議員が述べたように水道水源条例が厳しくなる。私たちの町は1次産業、家畜の堆肥処理などいろいろな問題を抱えて莫大な費用がかかっている。そういう時に、盛岡市が下流部として厳しくなるということは財政的にも大変難しい面があると思う。かと言って、財政的に支援をしてほしいということではない。環境問題というのは、今は心をいやす側面もあり、私たちの町としても意識的に河川敷の整備等、地域として盛り上げている。盛岡市も流域として共通の意識を持ち、河川の環境整備に取り組んでもらいたい。

◎（雫石町議員） 1点目として、矢巾から南昌トンネル、そして雫石に至る大規模農道として整備された道路を、雫石では環状線と言っているが、これが小岩井乳業のところで止まっている。これを何としても滝沢や盛岡の御協力を得て、青山町方面に通したいということを考えている。以前、滝沢村議会ともこの話をしたが、それ以上の動きがなかった。小岩井という観光地を抱え、特にも岩手雪まつりの期間は国道46号が混むという現状もあるわけだから、このことに関する広域的な取り組みが必要と思っている。

あともう1つとして、盛岡と雫石で共有している御所ダムは最近、土砂の堆積が非常に多くなってきたような感じがしている。管理事務所なり岩手工事事務所なりにも働きかけて、清流を守る意味からも土砂を撤去すべき時期に来ているのではと思っている。そのためにも、町と市が力を合わせて推進するべきと考える。

◎高橋・市会長 それでは、当局の部長から総括的な所見をもらう前に、市の委員から今出された雫石側の意見に対して、何か所感があるか。

◎（盛岡市委員） 私が議会で、あるいは市の担当職員の人たちと話していることに関

連して。

以前、御明神の奥に養豚場がつくられる時に、盛岡の住民が反対だと言ってつくりたくないようにと雫石側に相談したことがあった。水を守れとか、養豚場をつくるなとかと言っても、雫石の人たちには豊かになる権利がある。あれこれつくるな、開発するなということであれば、盛岡の住民は何を協力してくれるのか言ってくれなければ困るではないかということで、話をしてきたこともあった。今度、水源条例をつくるに当たり、盛岡市には水質検査センターがあるが、雫石町が水質検査を委託するのに料金が700数十万ほどかかっている。それぐらいならば盛岡市が負担し、水をきれいにしてもらっている、守ってもらっているのだからそれぐらい負担したらどうかということも話したりしていた。水道の広域的問題も含め、いろいろ研究をして、お願いや規制をするだけではなく、盛岡市としても対応すべきということも話している。

それから、手づくり村の関係でも、今度は御明神から立派な曲り家を譲られて、手づくり村に整備するということになった。曲り家という建物をただ見せて管理するのではなく、風土や文化、伝統というものを意識して、地域の方々が手づくり村の中で雫石あねっこのような姿などで出迎えたりするような、あるいは来た人たちが参加体験できるような施設につくりかえていく必要があるのではないのかということも、職員の人たちと話をしたことがある。

それから、農業の関係で、実は雫石町の田んぼを耕しているのが盛岡の農家だということが結構多い。例えば葉をまくにしても、雫石在住の農家の分へは助成をしながら農薬をまいたりしているだろうが、その時、逆に盛岡の人の田んぼはどのようになっているのかを考えたりする。もし葉をまいてないと、逆に迷惑をかけるような状況になっているのではということもある。そういった問題を含め、もっと盛岡の方が農業問題、そしてグリーンツーリズムに対しても認識を深めながら、農家、観光業者も含めつつ、情報交換等に盛岡市がもっと協力していく必要があるのではと思っている。

いろいろあるが、議会なり議員として議論していて、決して関心を持っていないということではないことを報告させていただいた。

◎（盛岡市委員） 水にかかる環境問題について、盛岡はようやく繋温泉まで通ったわけであるが、鶯宿温泉は浄化槽も壊れて水がそのまま流れている状況があると聞いている。下水道が通るまでの間は浄化槽できちんと対応してもらいたい。非常に言いづらいことではあるが、周辺や河川、地下水といったことへの影響を考えると、市と町が協力して何とか対処できないものかと考えている。

それから、御所湖の土砂堆積については、魚釣りをやっている人は、昔は腰まであった深さのところは今は足首だと言っていた。少しばかりではなく、土砂の堆積はもう相当進んでいるものと非常に憂慮される。去年も若干掘っていたようだが、いずれ本格的にやらなければ早晚おかしくなるのではと思っている。

それからもう一つ。農業分野について、盛岡に住んでいて雫石で田んぼをやっている方も相当いる。いずれ、おいしい米をつくるためにどうするかということについて、是非農

業分野の方でも双方がしっかり連携していくようにしたい。

◎高橋・市会長　それでは、担当部長からそれぞれ所感を話していただきたい。

◎産業部長　最初に観光の関係について、温泉を生かした観光が必要とのことであるが、確かに、温泉を利用した観光は首都圏あるいは関西方面のお客様から非常に喜ばれており、また、最近台湾のお客さんがふえている。外国人の方は雪と温泉、紅葉が大好きで、ターゲットをこの辺に絞りながら進めたいと思う。また、湯雪（ゆき）王国という商品をつくっており、この商品を大いにPRをしていきたいと思っている。

次に、シャトルバスの件について、資料にもあるとおり盛岡市内の「でんでんむし」と一緒に、「ぐるぐるモーリオ」という観光循環バスを土日だけ実験運行した。鶯宿温泉やつなぎ温泉、手づくり村、小岩井農場と、この周辺を回るバスだったが、利用が思ったより少なくてそのまま続けることが採算上困難になり、今は中断している。今後は採算面や効果等を研究して関係機関と相談していきたい。

冬季観光について、国体等その他の誘置が必要であろうとのことである。確かにそのとおりで、盛岡市でも広域でさまざまな大会を誘致するコンベンションビューローという組織があり、この中でさまざま活動をしているが、さらなる活動が必要と思っている。

岩手高原の再開については、なかなか経営者を探すのは大変であろうと思われる。八幡平リゾートの方は見つかったようであるが、スキー場協議会の方でも話し合っていきたい。

観光案内板について、やはり車で来る方が非常に多いので観光案内板は確かに必要であるし、現在国道46号の繫十文字周辺を中心に、県、それから盛岡市、雫石町で補助金を出し合って看板を現在つくっている。12カ所に設置する形で進めており、道路管理者に道路占用について協議している。これは統一された看板になるので、御期待いただきたい。

手づくり村について、開設当初は20万人の観光客を見込んでいたが、一番いい時で100万人を超えた時期もあった。現在は50万人台でずっと横ばい状態になっている。当初見込みの2倍以上にはなっているが、100万人のころの思い出があり、ちょっとさみしいなという気持ちがある。売り上げの方はやはりこうした経済状況で非常に落ちている。1人当たりの購買力が落ちており、これもやむを得ないのかなと考えている。それから、職人たちの工房についても、確かに閉じ込められたような感じでやっている場所もあるので、これは建設検討委員会で議題として検討してみたい。それから、曲り家のことについて、先ほど盛岡市委員から話があったように、雫石の曲り家をいただくということで、現在進めており、こどしの11月には完成する予定である。観光シーズンとちよっとずれるが、8、9、10月の観光シーズンには、曲り家を移転しているところを公開し、これもまた一つの体験ではないかと思っています。移転後には、その曲り家を利用して地元の食べ物やお茶などでおもてなしできる方策を現在検討中である。地元の方々の御協力をいただきながらそれらをやっていききたい。

また、農業について、確かに資料には整合性が必要と書いてあるが、産業の位置づけが違うからそれぞれ違ってもいいのではという意見もあった。お互いの特性、地域性を

生かしてやっていければと思っている。それから、BSEの牛の焼却処理について、これは県の方から各市町村の焼却処理施設を持っているところに焼却の依頼があり、それぞれに検討している。盛岡市でも現在、焼却するかどうかを地元あるいは議会の方々と相談してやっていかなければならないと思っている。ただ、広域で処理できる施設があれば確かに一番いいわけであり、この辺も県と相談していきたい。

最後に、岩手雪まつりへの負担金について、9万円というのは確かに担当としても非常にさみしい額ではある。ただ、収支報告にはあらわれていないが、盛岡市でも雪像を1基、これは90万円するが、建設しているのであわせて100万ほどの予算を使っている。しかし、もう少しバランスの取れた支出をできればということで、応援をひとつよろしく願いたい。

◎建設部長 道路関係について、まず、国道46号の4車線化に関しては、雫石町議員が話されたとおり、宮古、盛岡、秋田と結ぶ横軸連携を民間の方々が主体になって動き、去年はNPO法人になったというように活発な活動をしている。

ただ、所管している国土交通省岩手工事事務所に聞いたところ、こういう時代に新たな整備に着手するのは大変だとのことであった。現在国道4号の拡幅を滝沢村でやることにもなっており、46号線に手をつけるというのは大変な状況で、こちらの聞いた範囲では時期等についての明確な回答を得られなかった。横軸連携については岩手工事事務所も一緒に入ってやっているのだから、そうした機関を通じながら要望や要請をして、早期に着工されるように活動していきたいと思っている。

次に、繫大橋からの直線道路の件について、問題の地域は盛岡市と雫石町が入り組んでおり、私もどういふふうな行政区境になっているのかが現地で見てもよくわからないくらいであったが、いずれ繫一手づくり村-小岩井農場と結ぶ観光ルート等広域的交通については既存の県道が対応しているものであり、このルートに関しては、その地域の方々のいわゆるコミュニティ道路というようなことで整備していきたい。安心して使える、通過する車両が猛スピードで通らないような道路の整備が必要ではないかと、市の方では地域づくり懇談会等で話をしている。広域的に一体で整備するという点については、まさしくそのとおりだと思うので、土地改良との整合性と合わせて、できるだけコミュニティ道路になるように考えている。

最後に、雫石町議員からの、南昌トンネルから小岩井へのルートを青山町ということについては、こちらとしてルートの的にはっきりしない点があるので、後ほど検討させていただきたい。

◎下水道部長 鶯宿幹線について、この鶯宿幹線は県の流域幹線であり、現在、全県域の污水適正処理構想に基づいて私ども公共下水道、それから農業集落排水事業、合併処理浄化槽、これら大きい3つの手法をもって污水処理の整備を進めている。御所湖の流域については早期にこの污水処理の整備をする必要があるということで、雫石町といろいろ協議しながら県に整備促進をお願いしている。おかげさまで、雫石町の鶯宿の舩沢橋付近か

ら、繫大橋の雫石幹線までを鶯宿幹線として約8,3キロほどを基本計画の中に位置づけていただき、その後、平成11年に県の方から事業認可をいただいた。

これについては、県の御所湖の広域公園整備事業の中でオートキャンプ場が位置づけされており、その整備と整合性を図りながら流域幹線を整備する必要があるということから、平成11年に認可された。その後も県といろいろ協議しているが、雫石町と盛岡市の住民の方々の汚水を流し込むということであれば、さらに整備を促進したいということで、現在北上川上流流域下水道都南処理区として1市2町2村、盛岡市、雫石町、滝沢村、玉山村及び矢巾町で組織する促進協議会の中でもいろいろ協議しながら、整備の促進をお願いしている状況である。その中で今年度は、おかげさまでこの幹線の測量や設計を実施していると伺っている。

次に、御所湖の土砂の堆積について、これまで御所湖の環境整備ということで国土交通省からいろいろ基盤整備をやっていただいた。その土地を利用して、県の方で御所湖の広域公園整備事業として整備をお願いしている。また、その後の御所湖の管理をどうするかという、現在盛岡市、雫石町及び国土交通省で組織しております御所湖連絡協議会の中で、この土砂の堆積についてお互いに確認し、認識している状況であり、一緒になって対応を考えていきたい。

◎水道部長 水道水源保護条例について、この条例ができることによって雫石町でも規制が厳しくなるのではないかとのことであったと思いますが、今市域内を任意の点で水質観測をしているが、その観測結果からは、現状であればそのまま推移しても飲料水として支障ないとされております。現在考えているのは排水規制であり、時間とともに水質の悪化が進むことを予測し、今のうちにそういった排水規制を定め、現状維持の考え方からスタートしている。これは市の条例であり、市域に限ってということになる。ただ、雫石川に関しては、ほとんどが雫石町の森林から流れてきていると考えられるので、ご協力を願いたいという立場で進めている。

◎高橋会長 この辺で取りまとめさせていただきたい。

環境問題について雫石町議会の方から意見が出されたが、担当の環境部長が本日は出席していないので、これは宿題とさせていただき、書面にて回答させていただきたい。

また、今回出たいろいろな意見等及び担当部長からの話を盛岡市議会議長の方で取りまとめた上で、市長に報告をさせていただく。そして、盛岡市議会議長へ市長の回答をいただき、盛岡市議会議長から大宮町議会議長へ書面にて報告したいが、そのような形でよろしいか。(よし)

それと、次回以降の運営については、盛岡及び雫石の両正副議長に御一任をいただきたいが、それでよろしいか。(よし)

それでは、以上のように進めさせていただきたい。

盛岡市議会・雫石町議会懇談会の意見等

〔平成14年1月24日開催〕

〔総括的關係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 共通課題	(1) 相互連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ (前回の冬季) 国体場所選定の経緯を踏まえ、盛岡市へ応分のお願いをしたいときは、遠慮なくお願い、あるいは呼びかけをし、議長や首長同士が話し合いをするようにすべきである。 	

〔企画關係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 交通対策	(1) バス路線	<ul style="list-style-type: none"> ・ シャトルバスについては、小岩井農場、手づくり村、つなぎ温泉、鶯宿温泉、雫石スキー場、網張温泉を回り、盛岡とつなぐ形で実現したい。また、生活路線としての関係も含め、盛岡市と協力しながら進めたい。〔産業関係にも掲載〕 	
	(2) 秋田新幹線の雫石駅停車	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田新幹線の雫石駅停車については、時間が半端なことや本数が少ないことから、利用されていない。また、東北新幹線が八戸まで延伸されるが、停車本数を増やさないとこの地域が不利になると感じており、協力をお願いしたい。 	

〔環境関係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 清 掃	(1) 焼却施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雫石町の焼却施設は10年以上経過しており、これから補修費等もかかることが予想される。今後、各自治体で焼却施設を確保することは難しい状況であり、広域的な観点から検討していきたい。 	

〔産業関係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 農 業	(1) 農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雫石町の産業は農業を核としており、盛岡市はある意味では消費地という捉え方をしている。農業関係助成制度の整合性というよりは、お互いの地域での良さをどこに見出し、それを生かしていくかということの方が原点と考える。 ・ 盛岡市内の農家が雫石町内で耕作していることが多いが、農薬散布などで迷惑をかけている状況になっているのではないか。こういう問題も含め、盛岡市の方が農業問題、グリーンツーリズムに対し認識を深め、情報交換等に協力していく必要がある。 ・ おいしい米を作るためにはどうするかについて、農業分野でもしっかり連携してほしい。 → お互いの特性、地域性を生かしてやっていければと考える。 	
	(2) B S E 問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛海綿状脳症 (BSE) 問題では、廃乳牛への餌付け、肉牛の価格低迷、死亡した牛の処理の問題があり、模索している。 → 牛の焼却処理について県から依頼があり、検討しているところだ。広域での処理についても県と相談したい。 	

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
2 観 光	(1) 温 泉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉に関して、共通した問題がある。 → 温泉を生かした観光については、首都圏や関西方面、台湾の方々をターゲットに進めたい。また、「湯雪（ゆき）王国」の商品を大いにPRしていきたい。 	
	(2) 岩手雪まつり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの形で、果たしていいのか。 ・ 岩手雪まつり実行委員会は、雫石町長が会長、岩手県知事、盛岡市長、滝沢村長が顧問になっている。また、前年の収支決算では、雫石町からは170万円の負担金、盛岡市は9万円、滝沢村は10万円となっている。広域的な面を考えるのであれば、会長は岩手県知事、副会長は盛岡市長、滝沢村長、雫石町長が就任し、それ相応の負担、支援をし、盛り上げていかなければならない。 → 盛岡市としては9万円の負担金のほかに、雪像1基(90万円)を建設しているが、もう少しバランスの取れた支出ができればと思う。 	
	(3) シャトルバス	<ul style="list-style-type: none"> ・ シャトルバスについては、小岩井農場、手づくり村、つなぎ温泉、鶯宿温泉、雫石スキー場、網張温泉を回り、盛岡とつなぐ形で実現したい。また、生活路線としての関係も含め、盛岡市と協力しながら進めたい。〔企画関係にも掲載〕 → 観光循環バス「ぐるぐるモーリオ」の実験運行では、利用者が少なく、今は中断している。今後は、採算面や効果等を研究し、関係機関と相談したい。 	
	(4) スキー場の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の国体誘致は放棄してしまったが、雫石町でスキー大会が開催されると、盛岡市としても意義があると思われることから、互いに連携し、国体や大会を誘致する努力が必要だ。 → 広域で大会等を誘致するコンベンションビューローの組織があり、さらなる活動が必要と考えている。 	

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
(2 観 光)	(5) 岩手高原スキー場の再開	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの形で協力を得ながら、再開する方法がないものか。 → 経営者を探すのは大変であろうと思うが、スキー場協議会でも話したい。 	
	(6) 案内板	<ul style="list-style-type: none"> 案内板の設置については個々に行うのではなく、盛岡から雫石にかけて一つの流れの中で、共通した理念・意識を持ち、イメージ、環境への負荷を考慮し作るべきである。 → 現在、国道46号繋十字周辺を中心に、統一された看板を12カ所設置することで進めている。 	
3 工 業	(1) 手づくり村	<ul style="list-style-type: none"> 手づくり村の入場者が激減しているが、例えば風情、景観を考えた回廊を造るなど、防寒対策を考えるべきである。 → 職人の工房については、閉じこめられたような感じの所もあるので、建設検討委員会で検討したい。 今度、整備をする曲り屋は単に見せるだけでなく、風土や文化、伝統を意識し、地域の方々の出迎えや来場者が参加体験できるような施設にする必要がある。 → 曲り屋は今年の11月に完成予定だが、8～10月の観光シーズンには移転しているところを公開したい。また、移転後は、地元の食べ物やお茶など、もてなしてできる方策を検討中である。地元の方々の協力もいただきたい。 	

〔建設関係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 道 路	(1) 国道46号・国道106号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田自動車道ができ、秋田とのつながりが薄くなっている。国道46号と国道106号について、早急な高規格化を達成するための努力が必要である。 → 国土交通省岩手工事事務所によると、現在、国道4号の拡幅を滝沢村内で行うこととしており、新たな整備に着手するのは大変だということで、国道46号の整備時期等について明確な回答は得られなかった。関係機関を通じ、早期に着工されるよう活動していきたい。 	
	(2) 繫大橋の直線道路（尾入野側）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雫石町元御所で行われている土地改良事業では、繫大橋からの道路を3本予定しているが、真っ直ぐに道路を整備するためには盛岡市域を通ることとなる。繫地域と国道との連結向上のためにも、協力してほしい。 → この道路については、土地改良事業との整合性と合わせ、コミュニティ道路として整備していきたい。 	
	(3) 雫石町の環状線（矢巾町から南昌トンネルを經由し、雫石に至る大規模農道として整備された道路）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雫石町の環状線は、小岩井乳業のところで止まっている。小岩井という観光地を抱え、また岩手雪まつり期間中の混雑もあり、滝沢村や盛岡市の協力を得、青山町方面に通したい。広域的な取り組みが必要だ。 → ルート的にはっきりしない点もあるので、後ほど検討したい。 	

〔下水道関係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 流域下水道	(1) 鶯宿幹線	<ul style="list-style-type: none"> • 雫石町は御所湖の上流であり、下水処理が重要な課題だ。繫を経由して鶯宿までの流域下水道については、早期の実現に向け協力をいただきたい。また、農業集落排水事業も実施しているが、この下水処理をきちんと行わなければ、御所湖の水量は守れない。 • 鶯宿温泉について、下水道が通るまでの間は浄化槽できちんと対応してもらいたい。盛岡市と雫石町が協力し、対処できないものか。 <p style="margin-left: 40px;">→ 御所湖の流域は、早期に汚水処理整備をする必要があり、雫石町と協議しながら県に整備の促進をお願いしている。鶯宿幹線は平成11年に事業認可をいただき、今年度は幹線の測量や設計を実施していると伺っている。</p>	
2 河 川	(1) 河川的环境整備	<ul style="list-style-type: none"> • 雫石町では河川敷の整備等について、地域として盛り上げている。盛岡市も流域として共通の意識を持ち、河川的环境整備に取り組んでほしい。 	
3 ダ ム	(1) 御所ダム	<ul style="list-style-type: none"> • 御所ダムの土砂堆積が最近、多くなってきた感じがしており、清流を守る意味からも土砂を撤去すべき時期にきている。雫石町と盛岡市が力を合わせ推進すべきである。 • 御所湖の土砂堆積は相当進んでおり、非常に憂慮される。去年も若干掘ったようだが、いずれ本格的に取り組まなければならない。 <p style="margin-left: 40px;">→ 土砂の堆積については、盛岡市、雫石町、国土交通省で組織している御所湖連絡協議会でも確認し、認識している状況であり、一緒に対応を考えていきたい。</p>	

〔水道関係〕

項 目	共 通 課 題	意 見 等	備 考
1 全般的事項	(1) 水質検査委託料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道水源条例をつくるにあたり、雫石町からの水質検査委託料について、水をきれいにしていただいている、守っていただいているのだから、盛岡市で負担してはどうか。また、水道の広域的問題も含め、研究をし、お願いや規制をするだけではなく、盛岡市としても対応すべきである。 	
2 水源保護	(1) 水道水源保護条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盛岡市で制定する水道水源条例は、現在の基準より厳しい内容のようであるが、川上である雫石町でもそれなりの対応を求められるのか。「きれいな水」を求めることは、共通の課題として考えるべきとの意識を持っている。 ・ 雫石町の第1次産業は、家畜の堆肥処理など、いろいろな問題を抱えており、下流部の盛岡市において水道水源条例が厳しくなることは、財政的にも大変難しい面がある。支援をしてほしいということではない。 <p style="margin-left: 2em;">→ 水道水源保護条例で考えているのは排水規制であり、盛岡市域に限ってということになる。ただ、雫石川は、ほとんどが雫石町の森林から流れてきていると考えられるので、ご協力を願いたいという立場で進めている。</p>	